

—船旅羈旅— 東京都・伊豆大島を歩く③

東京のアイランド・伊豆大島

東海汽船株式会社の「さるびあ丸」に乗船して、伊豆大島の岡田港に到着しました。昭和のはじめから名物の椿や、あんこさんに代表される観光地として有名な大島は、川端康成の「伊豆の踊子」など多くの文学作品でも紹介されてきました。東京から一番近く大自然を満喫できる島には、岡田港と波浮港、元町港の 3 つの港があり、春夏秋冬、どの季節でも楽しめる観光地ですが、海に囲まれた島独特の海水浴や釣りが楽しめる夏の季節に歩いてみました。

火山島ならではの地形は別世界で、ハイキングやサイクリング、日帰り登山も満喫できるよう。都会の喧騒から離れ、大自然の中のゆっくり流れる島時間は特別でした。

夕陽の美しいジオパークと地層大切断面

「富士箱根伊豆国立公園」に指定され自然公園法で守られている伊豆大島。豊かな自然や希少な資源のほか、地球の歴史を物語るジオパークとしての見どころも満載です。

そのひとつが地層大切断面であり、約 2 万年間に繰り返し発生した大噴火、約 100 回分の噴出物が 600m 以上も続く縞模様となっていました。まるでバームクーヘンのようなこの地層は、1953 年に道路建設のため山を削ったときに発見したもので、もともと起伏のある地形に沿って、噴出物が降り積もったため、大きく波打つ地層となった、大島の噴火の歴史ともいえます。

また、世界にも数少ない火山専門の博物館である「伊豆大島火山博物館」があり、ここでは火山最前線、世界の火山紀行、火山の百科の展示室など、貴重な展示物や映像を通して、火山の成り立ちや不思議を知ることができるほか、伊豆大島の美しい自然と人々の生活、ジオパークとしての魅力を感じることができました。

伊豆大島のシンボリック存在は、活火山で標高 758m の三原山です。外輪山展望台からは、溶岩が一面に広がる荒涼とした景色が望めます。展望台に近い茶屋でひと息ついてと思い、天井を注文しました。大島名物の明日葉の天ぷらが絶品で、また食べに来たいと、再訪を期待してしまいました。一句。

忘れない明日葉の味三原山

「海員だより」